

日本結核病学会九州支部学会

—— 第65回総会演説抄録 ——

平成22年11月12・13日 於 崇城大学市民ホール（熊本市民会館）（熊本市）

（第65回日本呼吸器学会九州地方会と合同開催）

会 長 興 梶 博 次（熊本大学医学部附属病院）

—— 一 般 演 題 ——

1. 器質化肺炎の治療開始後診断に至った肺結核症7例の検討 °高田誠一・島津和泰・木山程荘・南 建（朝日野総合病呼吸器）吉岡優一・内藤博道（江南病呼吸器）

器質化肺炎（OP）は肺結核症（pT）との鑑別が問題となる場合がある。過去5年間に江南病院で加療したpT 520例中OPと診断され副腎皮質ステロイド（CS）投与開始後にpTと診断された7例（1.3%）の臨床像を検討した。高齢者、男性、喫煙歴、fine crackleの欠如、右上葉のみの浸潤影、CTでの気腫性変化や石灰化の存在、起炎菌不明の肺炎後OPではCS投与開始後pTの続発に留意を要すると考えた。

2. 低ナトリウム血症による意識障害によって発見されたSIADHを合併した肺結核の1例 °南 貴博・若松謙太郎・橋迫美貴子・穴井 諭・岡村恭子・池亀 聡・大村春孝・田口和仁・加治木章・北原義也（NHO大牟田病呼吸器）熊副洋幸（同放射線）赤崎 卓（同内）榎 早苗（同循環器内）

81歳女性。意識障害および胸部異常影にて当院に転院となった。転院時、血清Na値が低下しており、全身精査にて肺結核に合併したSIADHと診断した。抗結核剤の投与と水制限にて、症状は改善した。SIADHは悪性疾患、中枢神経疾患、肺疾患に伴うことが多く、結核でもSIADHが合併することが知られているが、結核性髄膜炎や粟粒結核などの重症例に生じることがほとんどである。本症例のような軽症肺結核でSIADHを合併した報告は稀である。

3. 当院のQFT-2G検査におけるESAT-6値とCFP-10値の相関に関する検討 °高木陽一・橋口波子・片平雄之・大串 修（済生会福岡第二病呼吸器）

〔目的〕QFT-2G検査において、ESAT-6値（以下E値）とCFP-10値（以下C値）が乖離する事例を経験する。乖離する事例の割合、E値とC値の相関を検討する。〔方法〕

2007年6月から2010年7月までに当院にてQFT-2Gを施行された319例中、陽性であった96例に関し、E値が0.35以上かつC値が0.1未満、E値が0.1未満かつC値が0.35以上、前記以外の陽性症例の割合を求めた。またQFT陽性症例で2項目とも0.1未満を含まない54症例において散布図と相関係数を検討した。〔結果〕QFT-2G陽性96例中、E値が0.35以上かつC値が0.1未満が27例（28%）、E値が0.1未満かつC値が0.35以上が15例（16%）、前記以外の陽性症例が54例（56%）であった。乖離症例が44%を占めた。2項目とも0.1未満を含まない54症例におけるE値対数値とC値対数値の相関係数は0.158であり、ほとんど相関がないと考えられた。〔結語〕E値とC値に関し正の相関はほとんどないと考えられた。

4. 多発肺嚢胞性変化を呈し難治性気胸を合併した粟粒結核の1例 °仲本 敦・那覇 唯・藤田香織・原真紀子・大湾勤子・宮城 茂・久場陸夫（NHO沖縄病内）

特に基礎疾患のない36歳女性。粟粒結核を発症。その治療経過中に両側肺進行性の多発嚢胞性変化を呈し右気胸を合併。VATS手術を行うも、気胸は6カ月にわたって遷延。空洞性病変を有する肺結核症例での気胸の合併はしばしば認められるが、粟粒結核症例における気胸の合併は稀といわれる。本症例では粟粒結核に伴う何らかの機序により、肺内および臓側胸膜面に無数の嚢胞性病変が形成され、遷延性気胸をきたしたと考えられる。

5. 慢性血栓塞栓性肺高血圧症の経過中に発症した*M. gordonae*肺感染症の1例 °高野香菜子・井手昇太郎・大島一浩・長岡健太郎・細萱直希・森永芳智・栗原慎太郎・塚本美鈴・泉川公一・関 雅文・掛屋 弘・山本善裕・田代隆良・河野 茂（長崎大学病感染免疫学、第二内）柳原克紀（同検査）

69歳女性。慢性血栓塞栓性肺高血圧症の治療中、右肺S⁹胸膜側に浸潤影が出現、徐々に増大し空洞性病変と胸

水貯留をきたした。喀痰2検体および気管支洗浄液1検体で非結核性抗酸菌を検出し、*M. gordonae*が同定された。CAM, RFP, EBにて加療を開始、経過良好で治療継続している。

6. 当科における肺非結核性抗酸菌症の検討 °井手昇太郎・山本善裕・大島一浩・長岡健太郎・細萱直希・高園貴弘・森永芳智・栗原慎太郎・塚本美鈴・泉川公一・関 雅文・掛屋 弘・田代隆良・河野 茂(長崎大学病感染免疫学, 第二内) 柳原克紀(同検査)

2001年1月から2010年2月までに当科で診断した非結核性抗酸菌症69例について検討した。これまでの報告と同様に女性で呼吸器疾患のない症例が多く、結節・気管支拡張型の症例は増加傾向だった。呼吸器以外の基礎疾患では膠原病, 糖尿病, 悪性腫瘍などが見られた。長崎県は離島が多いという地理的特徴があり、今後原因菌の偏りや患者背景, 長期予後について多施設での検討を行う予定である。